

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300183
法人名	株式会社華響
事業所名	グループホーム華蓮
所在地	鹿児島県鹿屋市野里町3456-7 (電話) 0994-42-7223
自己評価作成日	令和3年11月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年1月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○当事業所は広い敷地に有料老人ホーム・デイサービスが併設されており感染対策を行いながら、住み慣れた地域で楽しみを持って生活ができるよう支援している

○外部への買い物などに出掛けられない状況の中でも、季節を感じる事が出来るようにと、地域の人々が自宅で取れた野菜を持って来てくださり、スクリーン越しにお礼を言われるなどの交流をされている。

○ご家族との面会が思うように出来ない中、写真等で利用者様の日々の状況を定期的にお知らせすることにより、安心していただけるよう支援している。今年度は、敷地内にきゅうりやブロッコリー・ねぎなどの野菜を作り、収穫などもして頂いている。

○子供110番の家に指定されており、日常から警察署や地域の防犯対策協力者などとの協力関係があり、不審者対策、防犯対策を検討しながら地域との連携体制を築いている。

○職員の殆どが介護福祉士や看護師・救急救命士などの有資格者であり法人内における救急体制への対応・個別ケアや終末期ケアに積極的な取組をしている。

ホームは、鹿屋市中心地より車で10分ほどの自然豊かな野里地区の一角に平成16年に開設されている。幹線道路沿いの広い敷地に平屋建ての静かな環境で、同法人のデイサービス事業所や有料老人ホームに隣接している。隣接の事業所とは常に情報を共有し、研修の実施や災害時の対応、会議室を借りる等日頃から協力体制を構築している。近くには小学校や保育園、商店、個人住宅等があり、開設以来、地域との円滑な交流が図られてきているが、現在はコロナ禍に配慮して面会も制限しており、イベントへの参加、ボランティアの受け入れ等は自粛している。

管理者及び職員は、ホームの理念を常に意識し、尊厳や人格、想いを大切にした安全なケアに努めており、心身の状態や生活習慣等にも配慮しながら利用者の意向に沿って趣味への取り組みを個別に支援するなど、生きがいのある暮らしとなるように取り組んでいる。本年の目標に「待つ介護」を設定しており、利用者のペースを尊重した急かさない姿勢で自分の親にしてあげたいケアの実施に努めている。利用者及び家族からの要望等を、ケアの中や面会、電話、LINE等で汲み取り、全員で協議して改善に繋げており、本調査のアンケートからも家族の信頼度の高さが窺える。

管理者及び職員は、お互いに気軽に意見を言い合える良好な人間関係を構築しており、日頃の業務の中や職員会議、ミーティング等で忌憚なく意見や要望を出し合って運営やサービスの改善に努め、また、家庭状況や個人的な事情等も思いやりながら働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。介護士の資格取得や通信教育による高校就学等へのバックアップにも取り組み、法人による給与体系や外部研修受講時の助成制度も充実されて、職員のモチベーションアップに繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	生活の中で理念が生かされているかを常に振り返りながら、利用者が地域社会の一員として生活が送れるように支援している。特に、朝のミーティング時などは、確認のいい機会となっている	利用者が地域の中で、安全で生きがいのある日々を過ごせる支援に取り組んでおり、理念は玄関やホールなど目につきやすいところに掲示し、朝のミーティングや職員会議、日頃のケアの中でも振り返りや意見交換等を行って、理念の周知と実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板などにより地域の行事を知らせて下さるなど日常的に交流出来ている。建物の横には、精米所があり精米仕立てのお米を配達して下さる。子供110番避難場所の指定施設にもなっている。	自治会に加入し、有線放送等で地域の情報を把握している。地域の清掃活動に参加し、散歩時の会話や農産物の差し入れ、小学生との交流（今年は手紙で）、災害訓練への協力など日常的に交流する関係を構築しているが、現在はコロナ禍に配慮してイベントへの参加やボランティアの受け入れ等は自粛している。地域の人からの高齢者福祉や認知症ケアに関する相談等には状況に応じた支援、助言を行い、ホームはこども110番の避難場所に指定される等地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々からの問い合わせ等に関して、現在は電話等による情報提供を行っている。空床の問い合わせの際に相談される家族もあり、ホームのみで難しいと思われる事に関しては、他の機関に相談されるよう案内している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9月までは書面開催、11月は通常通りの開催とし、利用者様の状況などについて報告、地域の代表や民生委員の方々から意見をいただきながらサービスの向上に生かしている	会議は、利用者、家族、地域代表、民生委員等が出席して隔月で開催（年2回はデイサービスと合同）しているが、コロナの感染状況によっては一堂に会することは控えて書面での会議に変更している。利用者の状況やホームの運営、行事、感染症予防、防犯対策等を熱心に協議し、寄せられた委員からの意見等は職員会議等で検討して改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書などを通してホーム内の状況やサービスの取り組みなどを報告、改善点などについて、メールや電話等で連絡が取れる状況にある。	市の担当者には窓口に出向いたり電話やメールで、介護保険の更新や各種制度に関する報告や協議、感染症予防に関する申請等を行い、助言、指導、提案を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。市やグループホーム連絡会主催のオンラインによる会合や研修にも参加して、運営やサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為については、一人一人の職員にたいして資料が渡されており、定期的に意見交換を行い、評価についても毎月チェックしている。	身体拘束については運営規定や重要事項説明書、利用契約書に明記されており、適正化の指針を整備し委員会を毎月開催している。「身体拘束チェック事項」を活用して評価等を行うなど認識を共有し、拘束の無い自由な暮らしの支援に日々取り組んでいる。不適切な言葉遣い等には、その都度、助言し合うなど改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けて意識を高めていく事を目的として、毎月自施設研修を行っている。利用者の自宅については、コロナウイルス感染予防対策等の観点から、地域の方々との直接的な交流が出来ないこともあり把握しづらい現状である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書面研修を通して、学ぶ機会があり、現在、成年後見制度の対象となる可能性のある方があり、必要性に関しても関係者と意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に具体的な説明を行い、納得していただいた上で契約・文書の交付を行い入居していただいている。又、入居後も毎月利用者の状況を伝え、不安や疑問点について尋ねやすい雰囲気作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用料の支払いにこられるご家族が多く、その際状況報告を行い、要望の聞き取りを行っている。	利用者や家族との信頼関係を大切に、気軽に意見を言ってもらえるように配慮している。利用者の思いを日頃の会話や仕草、筆談等で汲み取り、家族からは面会時や電話、LINE等で連携を図り、写真やコメントを添えた毎月の園便りで利用者の状況を伝えながら、意見や要望等を把握している。職員は出された意見を共有し、職員会議等で協議して改善に繋げている。なお、家族会の開催はコロナ禍に配慮して中止している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月給与は、手渡しとなっている為、収入や支出についての説明又、処遇改善や各加算等についても説明を行う。人員基準や人員配置等についても意見交換を行いながら、運営に反映させている。	管理者と職員は日頃の業務の中で気軽に意見を言い合える良好な関係を構築しており、日頃のケアの中や職員会議、ミーティング等で想いや要望を把握し、個人的状況や家庭の事情にも配慮しながら改善に取り組んでいる。勤務シフトには個人の希望や有給休暇の取得に配慮し、ケアに係る助言指導や研修の実施、通信教育による高校就学や介護士資格取得へのバックアップに努めるなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。資格取得や外部研修受講時に要する経費への法人による助成制度が充実されて職員のモチベーションアップに繋がっている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意分野を生かし、各業務の担当を決め、それぞれの相談役として活動するなど、職場環境の整備に努めている。又、本年度より、出勤時間のパターン追加を行い、短時間でも働きやすい勤務体制作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得に向け各研修への参加や通信教育受講の支援を行っている。又、勤務してから数年が経過している職員にたいしては、基礎研修の再受講など振り返りの機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ感染症対策もあり直接の交流は難しいが各協会に加入、ライン電話などにより、定期的な情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で本人・家族・関係機関より情報提供を頂き、本人の生活歴や現状をアセスメントしていき、本人のペースで徐々に馴染んでいただけるよう配慮しながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学して頂き、生活の流れを説明、得られた情報に基づいてサービス計画を作成、意見交換のできる機会を設けるなど関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、何に困っているのか、優先すべき支援を見極めスタッフ間で一貫性のある対応に努め、必要に応じて他のサービス利用も検討していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ADLに応じて季節ごとの物作り、毎日の洗濯物干しやかたづけなどお互い助け合っていきたいと参加されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態改善について家族の協力が重要である事を伝え、協力を得ながら共に本人を支える関係を築いていけるよう支援している。本年度は、毎日のリクレーションへの参加状況などを写真にし、本人からのメッセージなどを添えて送る方法で状況報告を行った		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の為、思うように外出支援が出来なかったが、ご家族を通してお送りした写真や手紙等で交流していただいた。	各利用者の馴染みの情報や思いを把握しており、従来は家族の協力を得ながら、買い物や墓参、通院、一時帰宅等に取り組んできている。現在はコロナ禍に配慮して外食や、家族との外出、会食、ボランティアの受け入れ等は控えているが、馴染みの場所の写真をリビングに掲示したり、ドライブにより馴染みの街並みや季節の風景を車窓から楽しむなど工夫している。毎月、利用者の写真を添付した園便りで状況を伝え、電話、手紙、LINE等を取り次ぐなど関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自身のADLによっても違いはあるが、物づくりやレクリエーション時などお互いに声を掛け合って参加されている。難聴などにより他とコミュニケーションの取りづらい方もあるが、筆談などで職員がフォローしながら、関係性が保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院などで、退去された利用者様のご家族から、退院後の生活について相談の電話が入ることもあり、自宅での生活維持に向け他のサービスへ繋げるお手伝いなども行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント情報や日常会話・表情・仕草などから思いを汲み取るよう支援しており筆談などで個別に対応する利用者様もある。	利用開始時の関係機関からの情報や、日々の会話、表情、仕草、筆談等から利用者の思いを汲み取り、家族の意向も伺いながら利用者主体のケアに努めている。その人らしい生きがいのある生活となるように、趣味（パズルやぬり絵、テレビ視聴他）や洗濯物たため、畑での野菜づくり等の取り組みも、利用者の意向や心身の状態に配慮しながら個別に支援し、その成果には、必ず評価や感謝の言葉を添えている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、本人を取り巻く関係機関から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前日のバイタル、水分・食事摂取量、排泄状況を勤務に当たるスタッフ全員が把握出来るようにしている。大まかな日課はあるが、その日の体調に応じて個々のペースで過ごされる事を大切にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援のなかで、本人の思いを把握し、又、家族や必要な関係者から情報収集を行い、毎日のミーティングの中で必要な事をスタッフ間で話し合い個人の変化や思いを共有しながら、モニタリングや介護計画に活かしている。	日頃の関わりの中で利用者や家族の思いや意向を把握し、主治医の指示やミーティング、モニタリング時の職員の意見を基に残存機能や習慣、趣味等にも配慮した介護計画を作成している。利用者の状況変化時には計画を実態に沿って変更し、家族の理解も得て改善に取り組んでおり、実施状況はミーティングやバイタルのチェック表、業務日誌、夜勤日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の様子を支援日誌に記録し、更に介護経過としてまとめモニタリングに活かしている。毎日のミーティングでも情報交換や話し合いを行い、状況の変化等早めに気付けるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、変化が見られるニーズ等に対して、レクリエーション内容や日課等も柔軟に対応出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校と手紙などによる交流を通して、お互い支え合う生活を楽しんでおられる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にし、家族の協力による受診や職員の同行支援など専門医別に受診が出来るよう支援している。月2回の訪問診療もおこなわれている。	本人・家族が希望する医療機関での治療継続を支援している。主治医による定期的（月2回）な訪問診療が実施され、他科受診も家族と連携を図りながら対応して適切な医療を受けている。協力医療機関との医療連携が構築され、また、管理者とは常時連絡可能な体制になっている。日頃から衛生や健康管理を徹底し、健康状態は家族にも密に報告して利用者及び家族の安心や信頼に繋がっている。平成31年に目標達成計画に掲げて、情報提供カードの作成や入退院時の支援体制強化等の改善が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に7名・ホーム内には3名の看護師が勤務しており、情報交換を行いながら支援している。又、気になる点については訪問医に相談し利用者様が適切な受診・医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては、日々の生活状況について情報提供書を作成し入院生活がスムーズに送れるよう支援している。今年度はコロナウイルス感染対策の為、入院中の経過や退院の時期については把握しづらい状況もあった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に聞き取り調査を行い「出来ること、出来ない事」等の説明を行う。この調査は変化が見られた際など定期的に行う。訪問医や薬剤師の助言を頂きながら、本人・家族の思いに沿ったケアが出来るように関係機関の協力を頂きながら支援している。	利用開始時に、本人や家族に重度化や終末期の対応を指針で説明して理解を得ており、入所後は病状に応じて話し合いや意向の確認を行っている。重度化した時点で主治医より病状の説明があり、家族の想いを把握して可能な限り意向に沿ったケアをチーム体制を整えて取り組んでいる。看護師3人の職員を中心に、現在も重篤な利用者のケアに取り組んでおり、毎年度1～2件程度の看取りを実施している。実施後は振り返りや意見交換も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応がスムーズに出来るようマニュアルや緊急ファイル等を準備している。応急手当や初期対応の訓練については救急救命士を職員として位置づけ、感染対策の観点から自施設研修を行いながら実践力を身につけていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>不審者対策や地震対策、火災時の避難訓練を年に2回おこなっている。消防団や地域の協力をもらいながら、安全に避難出来るよう支援している。</p>	<p>災害対策については年2回、消防団の協力を得て（夜間想定を含む）火災、風水害、地震の発生を想定した訓練を実施している。日頃から通報手段や避難経路を確認し、災害の報道を基に意見を交わすなど認識の共有に努めており、地域の協力体制も構築している。防犯や不審者対応も警察と連携を図っており、こども110番の避難場所に指定されている。自動火災報知機やスプリンクラー、防災カーテン、強化ガラスの窓等を設置し、ラジオや卓上コンロ等を備え、食料品、飲料水、介護用品も備蓄しており、施設は住民の避難場所として提供している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居から一ヶ月間は、「思いを聞く」ということを大切に、これまでの生活歴などや趣味などその人を知ることで、言葉かけのタイミングなどを検討していく	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いように、日頃から接遇マナーに努めており、心身の状態や生活歴、習慣等に配慮しながら自己決定を尊重した、急かさな「待つケア」に取り組んでいる。トイレや浴室等はプライバシーに配慮した構造になっており、衣服の着脱や排泄、入浴時の声掛けは羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	部屋の片付けや掃除など、一緒に行いながら必要な物を選んだり、買い物等の計画を立てたりされている。特に、入浴介助時などに良く話をして下さる。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の体調や希望に合わせた暮らしを支援している。起床時間・食事等も個々に合わせた時間で対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗濯物たたみなどは、自身でされる方が多く、その際、入浴の準備など好みの洋服を自身で選んでおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物リスト作り、調理・片付け等、利用者のADLに応じた役割分担を行いながら、食事が楽しみなものになるよう支援している。最近は料理の本なども、良く見ておられる。	食事は利用者の一番の楽しみで興味も深いことから、調理や片付けなどを利用者のADLや意向に配慮しながら一緒に取り組んでいる。栄養バランスや嗜好、疾病に伴う制限、代替品等に配慮し、季節の行事食や手作りのおやつ、干し大根、ラッキョウ漬、梅干しつくり、そば打ち等を利用者と楽しみながら取り組んでいるが、コロナ禍に配慮して外食や会食、弁当持参の遠足等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少なくなってきた利用者様については主治医と相談し、高カロリーのムースや飲み物等でフォローしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け・介助を行い、ポリデントによる義歯の消毒も一日置きに行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	起立時の尿漏れ等が多く、殆どの利用者様が尿取りやリハビリパンツを使用されている。自ら尿意を訴えられない方については、時間を決めて声掛け誘導を行いトイレで排泄出来るよう支援している。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンに応じた支援をプランに反映させて改善に努めている。昼間は声掛けや誘導等で可能な限りトイレでの排泄を支援し、介護用品やケアの方法を利用者の状況を考慮しながら工夫している。便秘の予防に植物繊維の多い食事や水分の摂取、運動量に配慮して自然排便に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況のチェックを行い、水分の補給や食材選びなど個々に応じた支援をしている。さつまいも・ヨーグルト・バナナ等を好まれる利用者様が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を嫌がられる方は現在のところおられない。入浴日に関しては、病院受診やドライブなど外への外出を考え、利用者様と話し合いをしながら、一日置きとなっている。時間帯については勤務体制もある為、「午前中」としている	個室での入浴を基本、隔日毎に支援しているが、必要時には、その都度、陰部洗浄や温タオル等で保清している。好みのシャンプーや順番、温度、時間、同性介助等は利用者の意向に沿って柔軟に対応して楽しんでもらい、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、日時を変更する等工夫して、利用者の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自室で過ごされる時間・レクリエーションなどへの参加については自由である。居室は寂しいと言われ、ソファで居眠りをされる方もある。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が個人カルテに添付されており、薬は薬局の薬剤師によってホームに直接配達される。受薬時に薬剤師の説明を受け服薬時は2名以上で確認する。内服に変更があった場合は、申し送りによって職員間で共有できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、食事の片付けや洗濯物干しなど、それぞれの役割をもって生活されている農業をされていた方も多く、今年は、きゅうりやブロッコリーなど収穫された。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の観点から、思うような外出は出来ていない。天気の良い日は敷地内の駐車場などで外気浴をされたり、花見などは車窓からの見学にとどめている	コロナ禍のため感染予防対策を徹底したうえで、利用者の心身の状態に配慮しながら園庭での散歩や野菜や花を愛で、また、ドライブにより季節の花や馴染みの街並みを車窓から楽しむ等工夫しているが、一時帰宅や外泊、外食、墓参等の外出は控えている。地域のイベントの殆んどが中止され、ホームの行事も十分には実施できない現状であるが、ホーム内で軽い体操やゲーム、ビデオ鑑賞、野菜作り等、工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>部屋で管理されている方もありますが、殆どがホーム側であずかっており、嗜好品や衣類など新聞の公告を見ながら買い物リストを作り職員に頼んでおられる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>写真やリクレーション等で書いた作品を送ったり、手紙のやり取りをされている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースをぐるりと取り囲むような居室が配置され、対面キッチンからは料理の臭いなどを感じる事が出来、家庭的な共有空間である。壁には、季節を感じさせるレイアウトがされ、行事の時の写真や利用者の作品などが掲示されている</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは明るく、余裕あるスペースが確保されており、仏壇が設置され、利用者の作品や季節感のある飾り物、馴染みの場所の写真等が飾られ、対面キッチンからは調理の音や臭いが伝わるなど家庭的で和やかな雰囲気である。清掃や空調、整理整頓、感染予防対策等を徹底して快適な環境になっており、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビを観る空間・物作りやレクリエーションを行う空間など、それぞれに気の合う利用者同士で過ごされている。9名という少人数の環境でもあり、「独りになる」という環境はあまり望まれない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物の持ち込み、身体状況や認知症の周辺症状に合わせて配慮した家具・手すりの設置など、利用者様が心地よく過ごせるよう工夫している。特に、布団や衣類は自宅で使っていた物を持ってきておられる方が多い。</p>	<p>居室はフローリングに腰高窓の構造で、余裕ある広さが確保されて明るく、エアコン、ベッド、クローゼットが備えられており、利用者の心身の状態や意向に添って配置の工夫や整理整頓を支援している。利用者は自宅で愛用していた寝具、衣類、家族写真、遺影、仏壇等を持ち込み、自身の作品や頂いた品物等も飾って、家庭同様に居心地良く過ごせる環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>部屋の入り口に、花やネームプレートなどを貼り、自身の部屋が分かるようにした事で、口腔ケアや必要なものがあつた場合など自身で取りに行かれる。「待つ介護」の実践に向けて、必要な事を見極め支援するようにしている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない